

5
1810
3

大正
文庫

月亭橋看市

夕
夕
夕

汗
志
かり

橋
を
や

看
市

女
星
堂

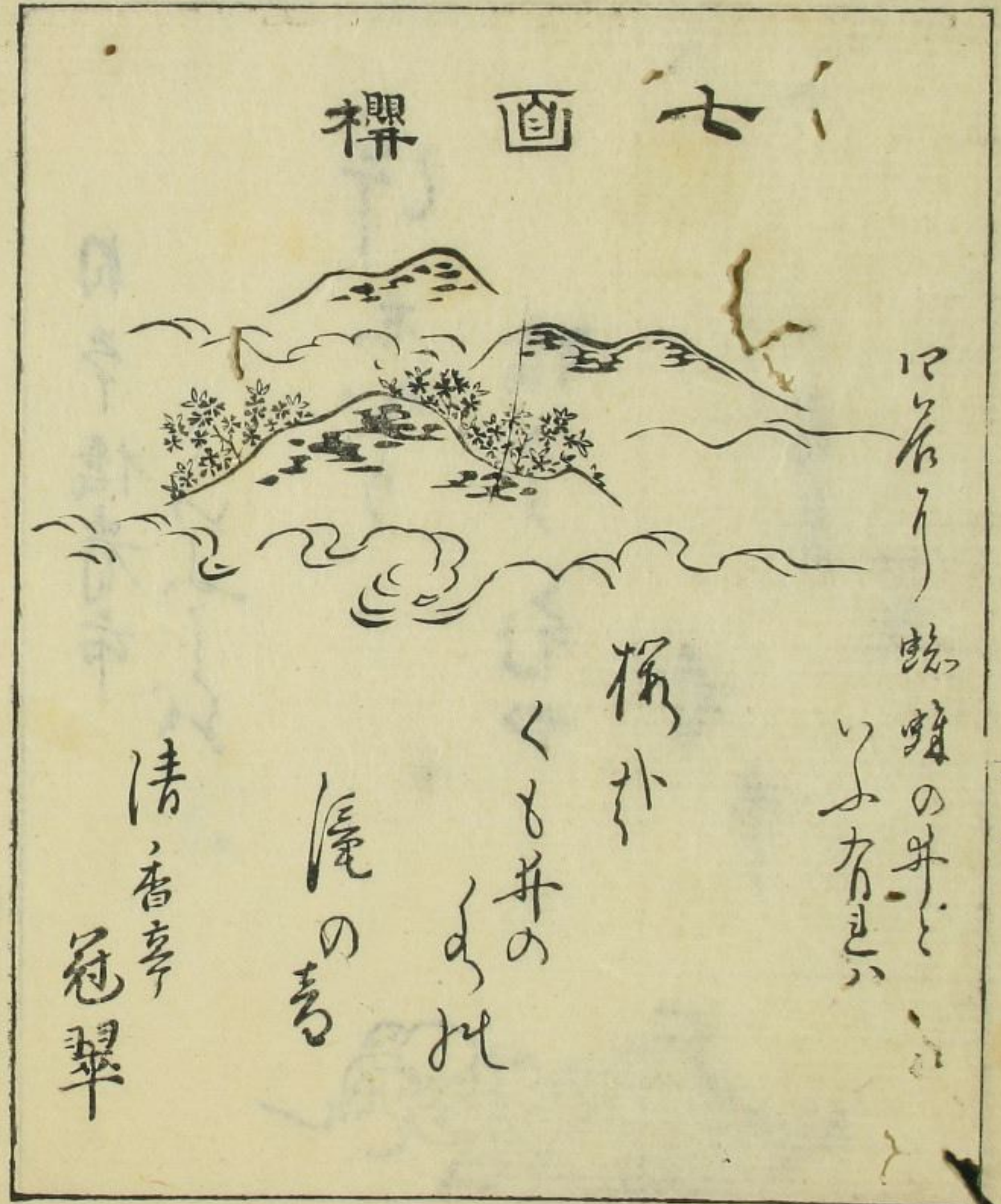
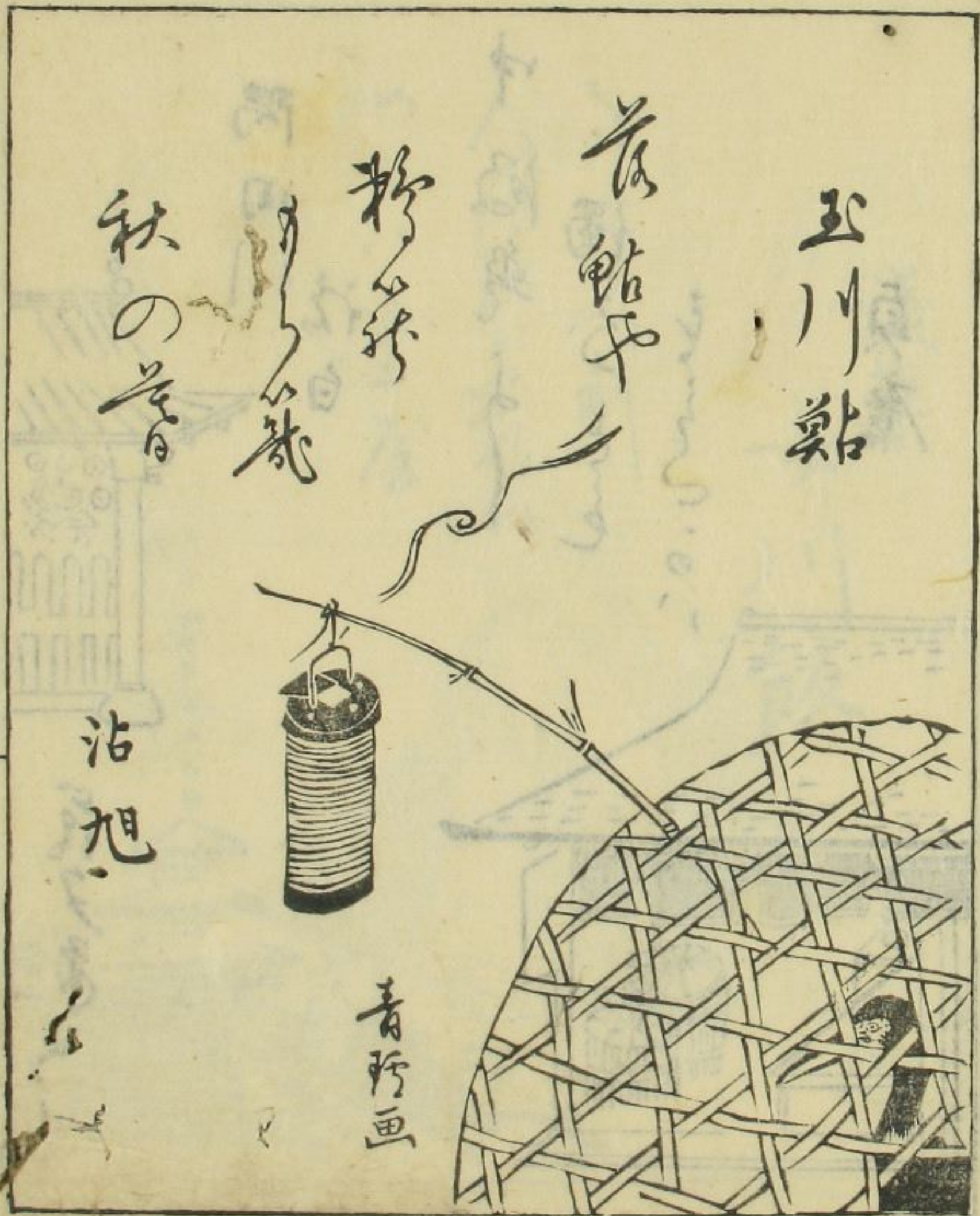
沾
霞



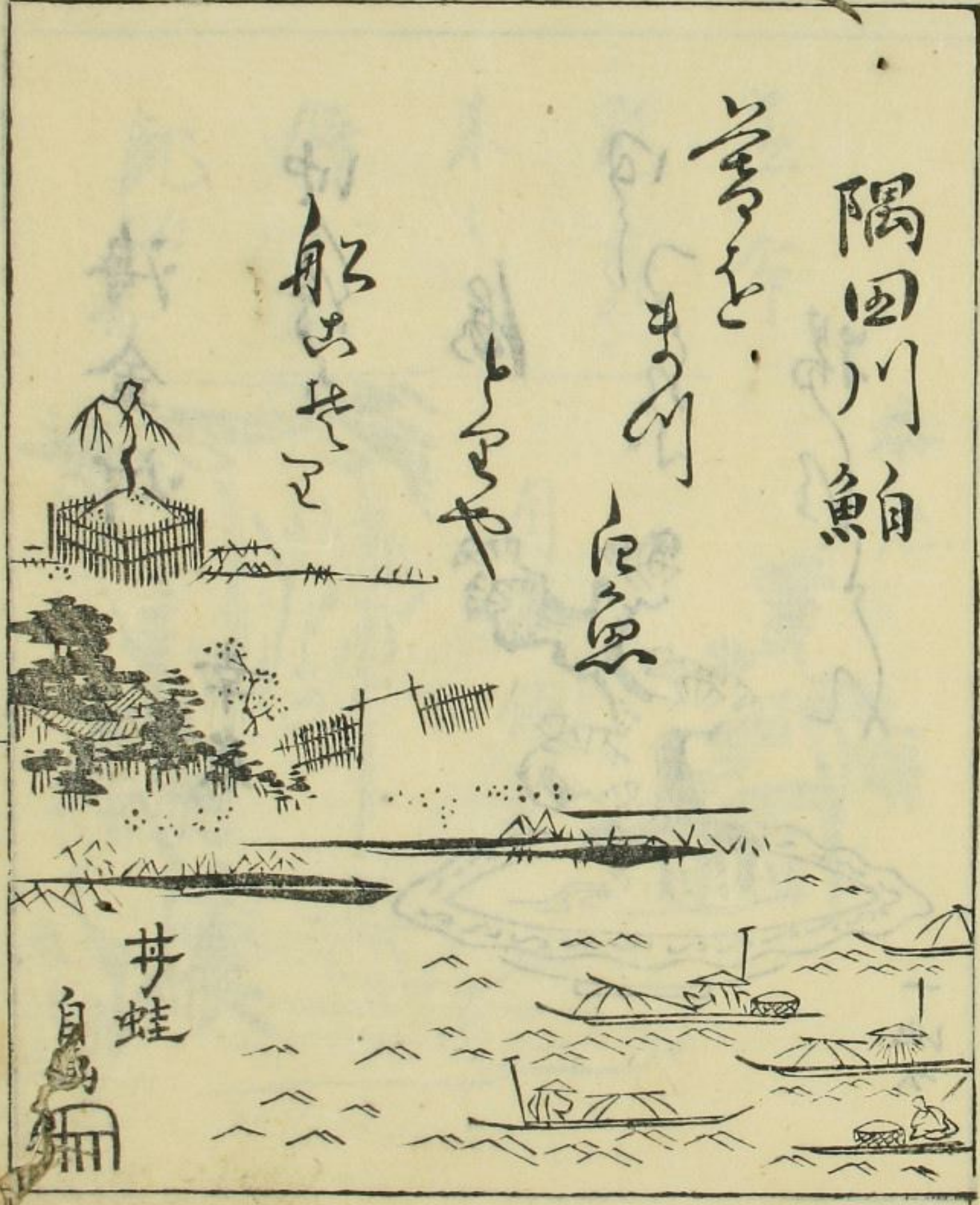
饗庭文庫

藤
文
庫

藤
文
庫







流の石
 餅の
 末々
 路子
 藤命

泰免



月意餅花

助誠玉

海金灯

幸魚

沖舟

海

河

揚子



一池公

来雄

深川地蔵

何物如日也

何物如日也

鼻



埃所雷漏

貴之孔

顔天指

何十

何十

音雪之乃



凍龜



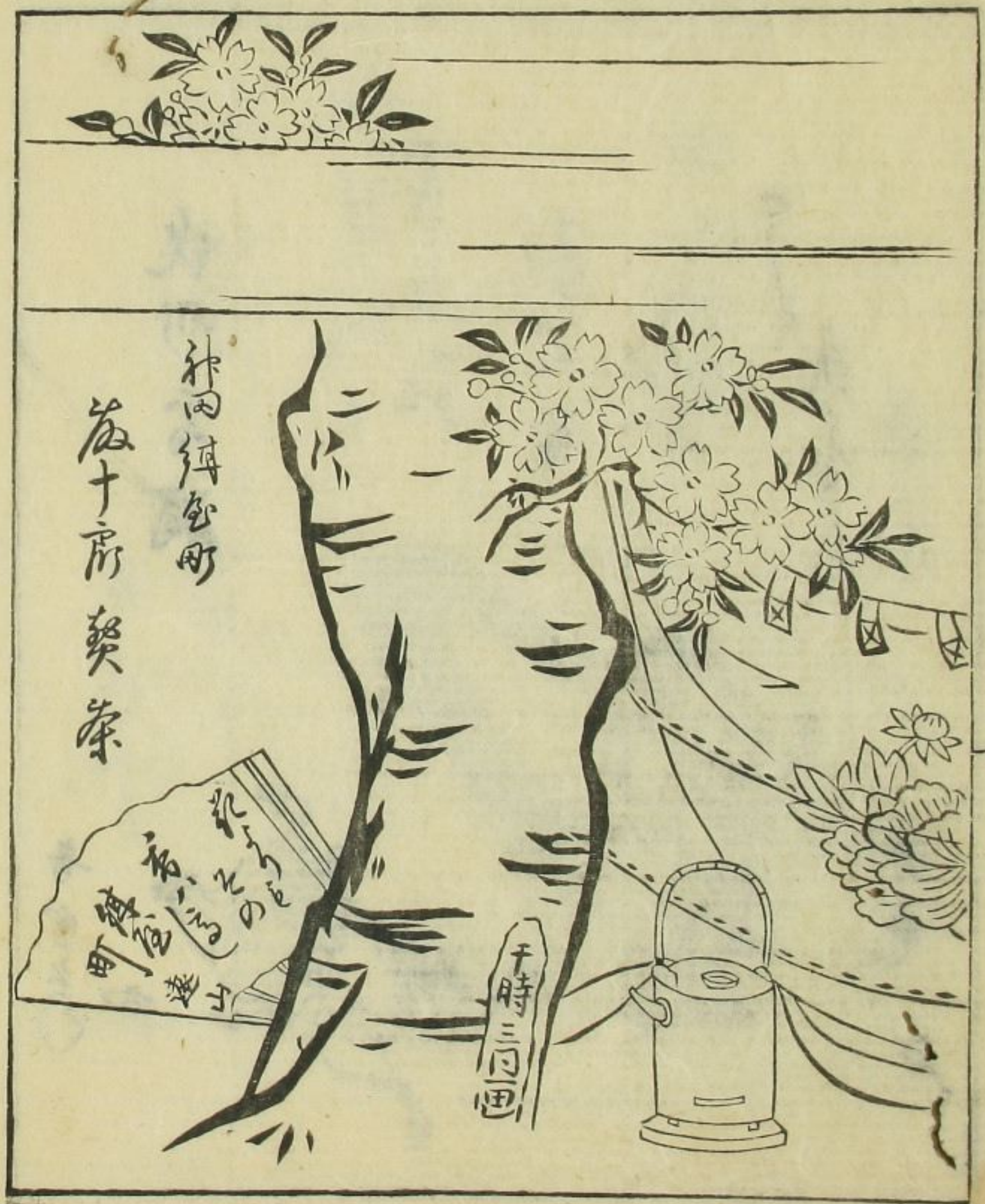


比立の女
 棟松

髪竹彫

白鳳雪々筆

青潤堂



比立の女
 比立の女

比立の女
 比立の女

比立の女



猪屋の揚枝

入おや

今本内うゝの

揚枝層

古浦

松雨画

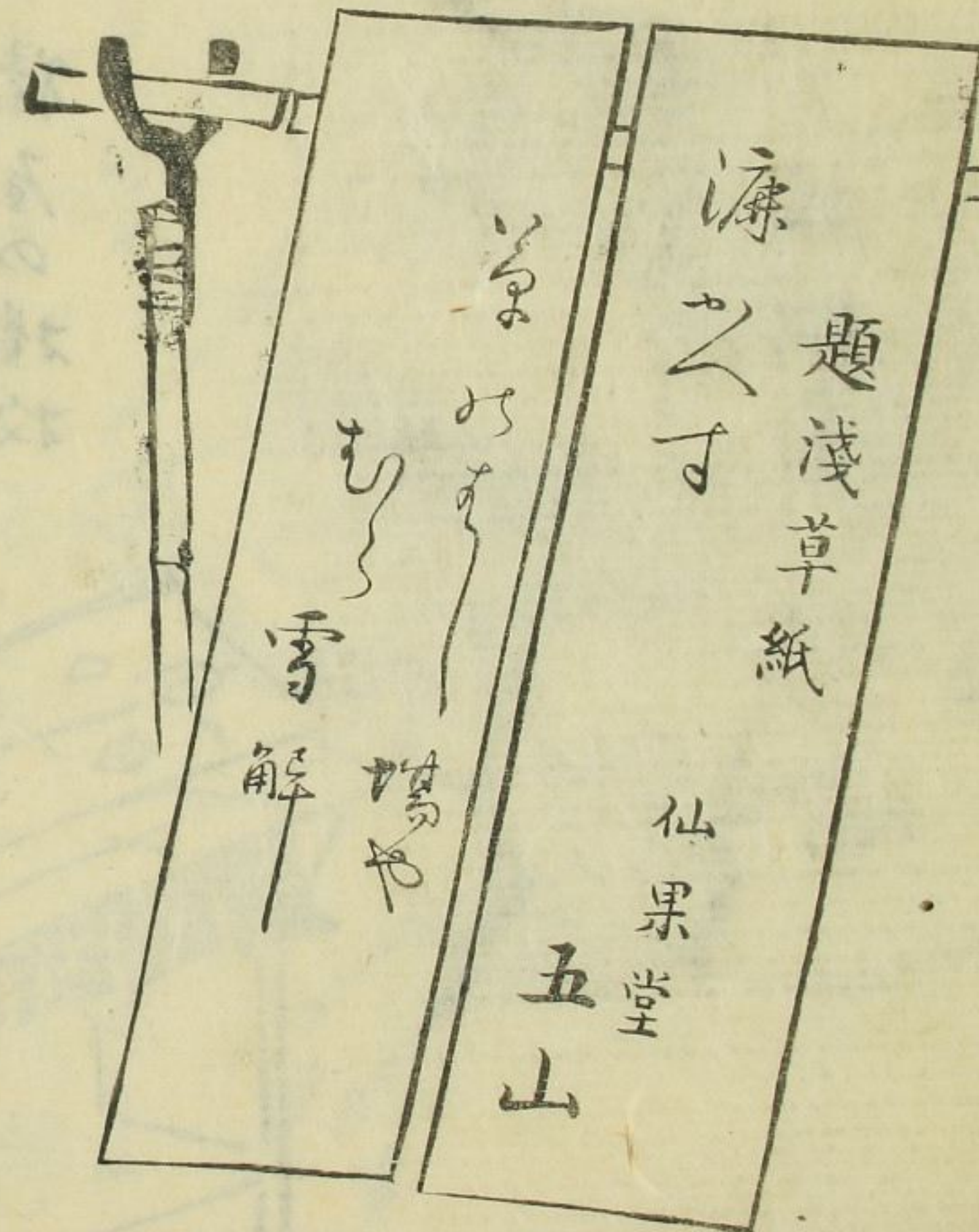


本々鞠室

替ひん納豆くわハ花やん足

又新白画





湯寫唐人



麟谷

神皇御

湯

御

出

あし

嵐夕画

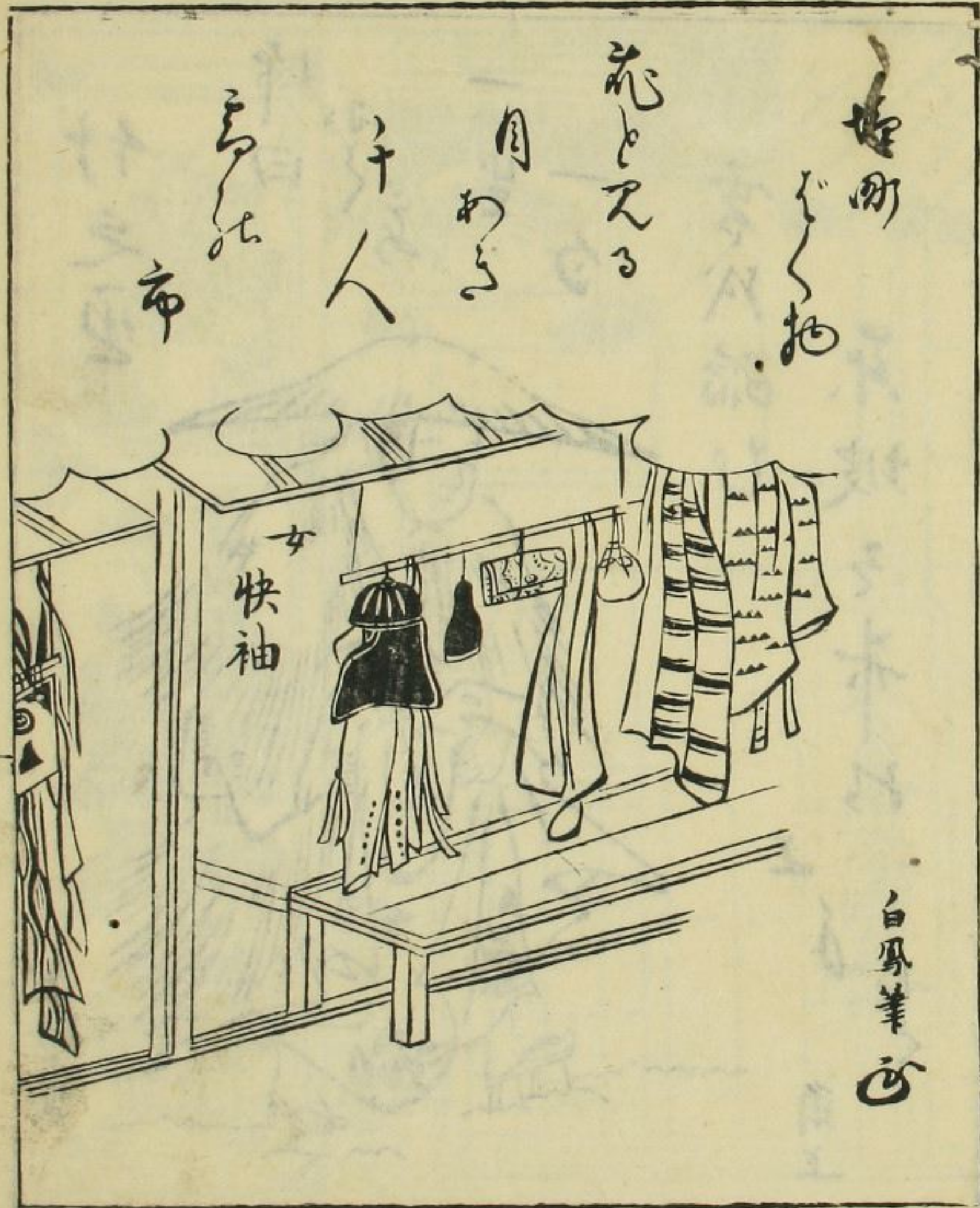
味管之元作

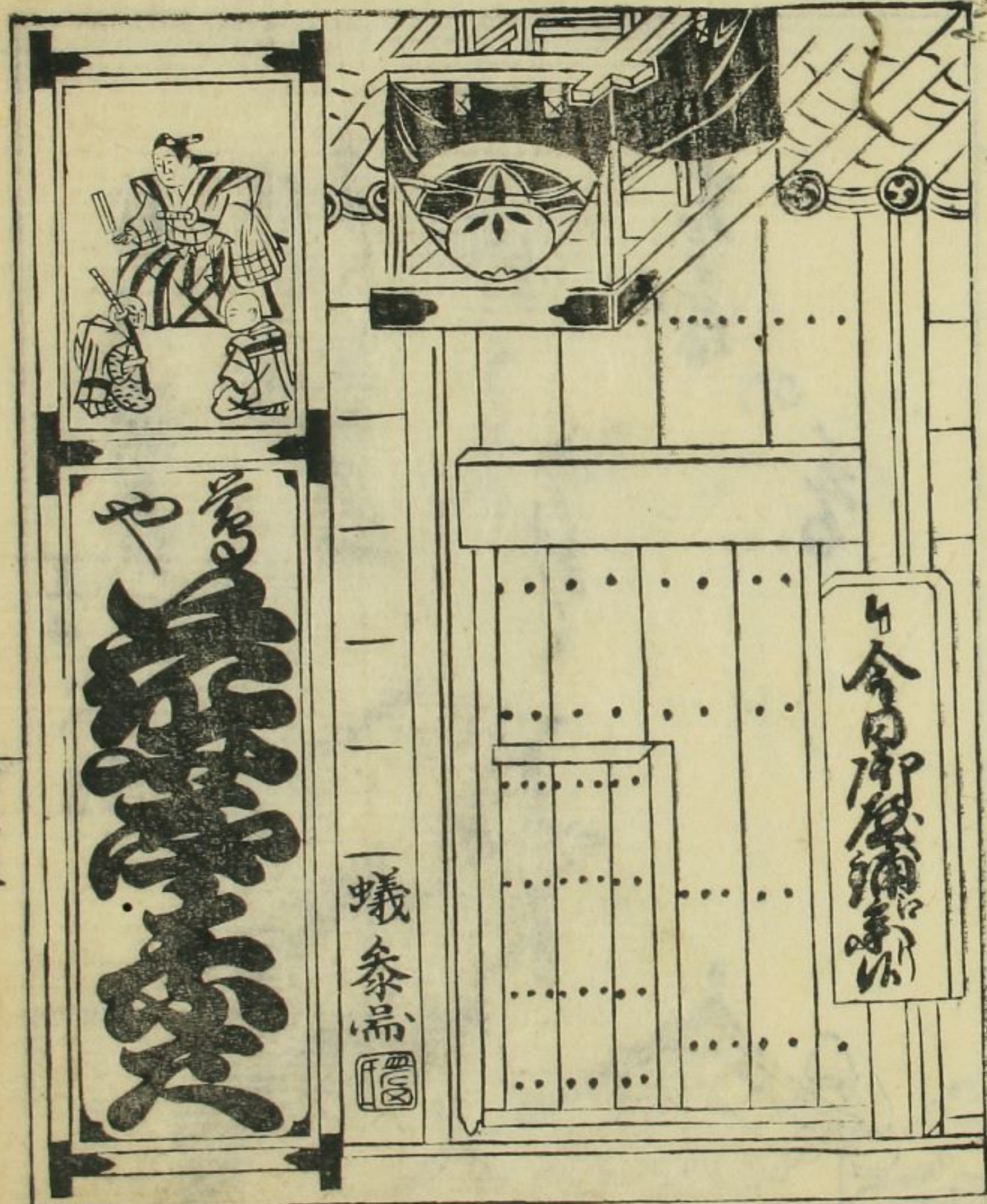


夢

未作

静和画





大徳寺

蟻象品

今日御成道



竹之屋

師曰

小く

一生

一句

雪以臨也

东坡之井水

上

小く

角上

三徳也

園光寺藤



白鳳雪冬画



又
花
文
蘭

文蘭

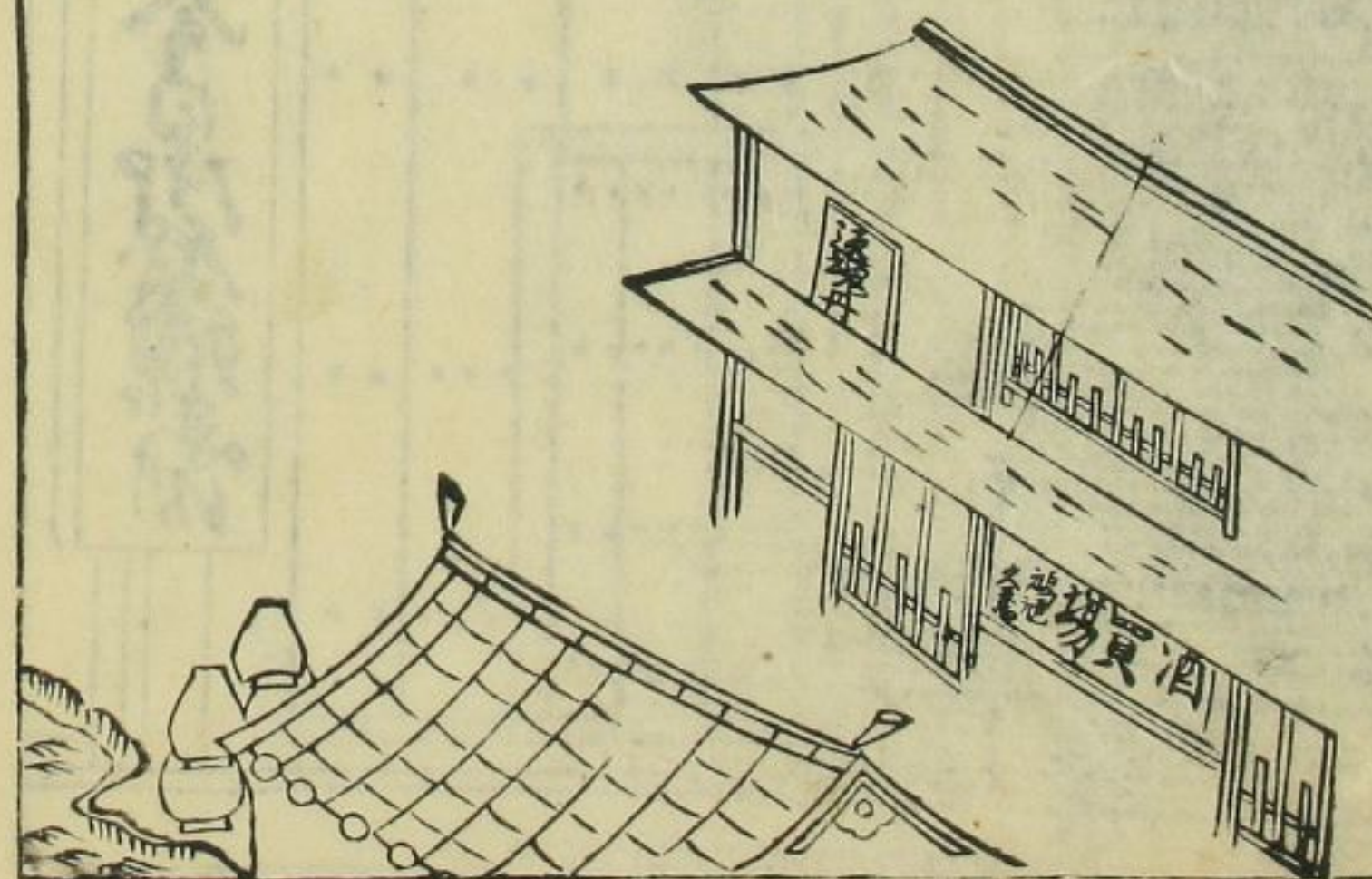
岩屋の音

風

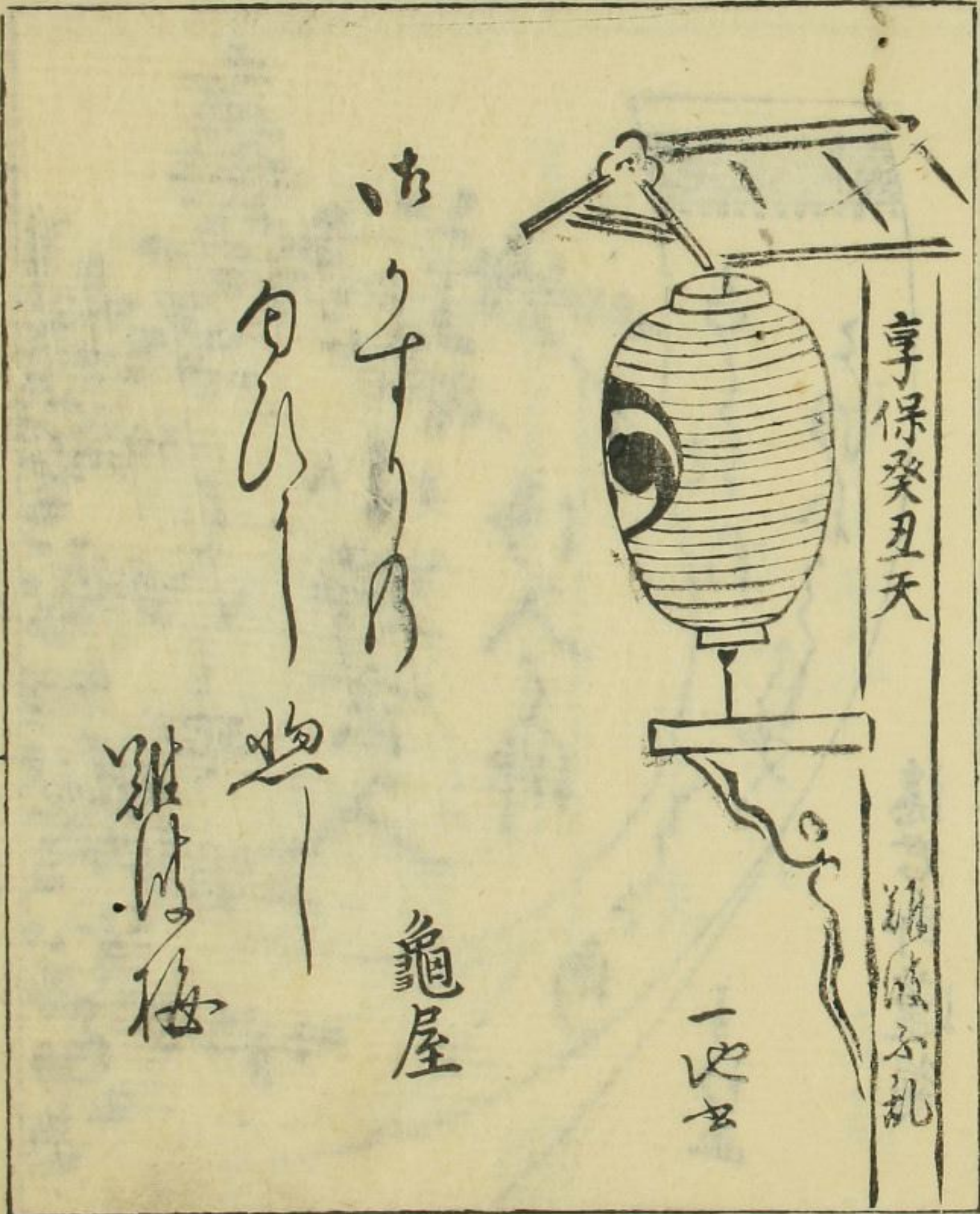
蝶
ま
く
ふ
ま
ふ

新川酒

鹿沼
新川



酒場



享保癸丑天

十三

桐山三了

白鳳雪琴画



り干や

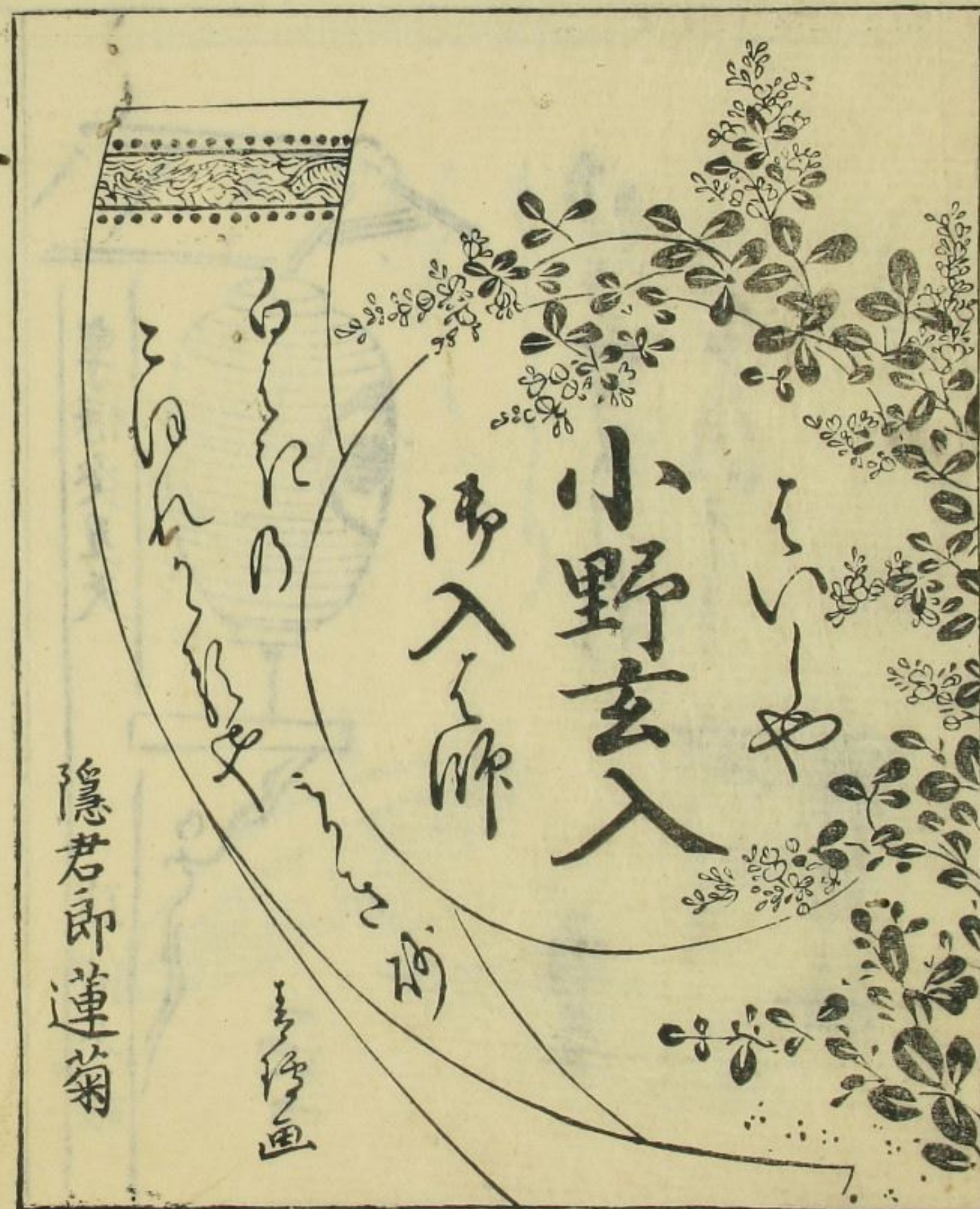
子柳の浪子

茶店

立翁



下十五



隱君即蓮菊

雪琴画

下十四

藥草賣
裸坊



林ゆやと
きんぎょの日
裸坊
舞鶴

きんぎょ

本町綿屋

時

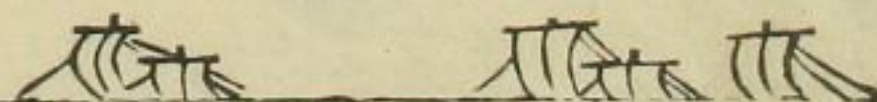
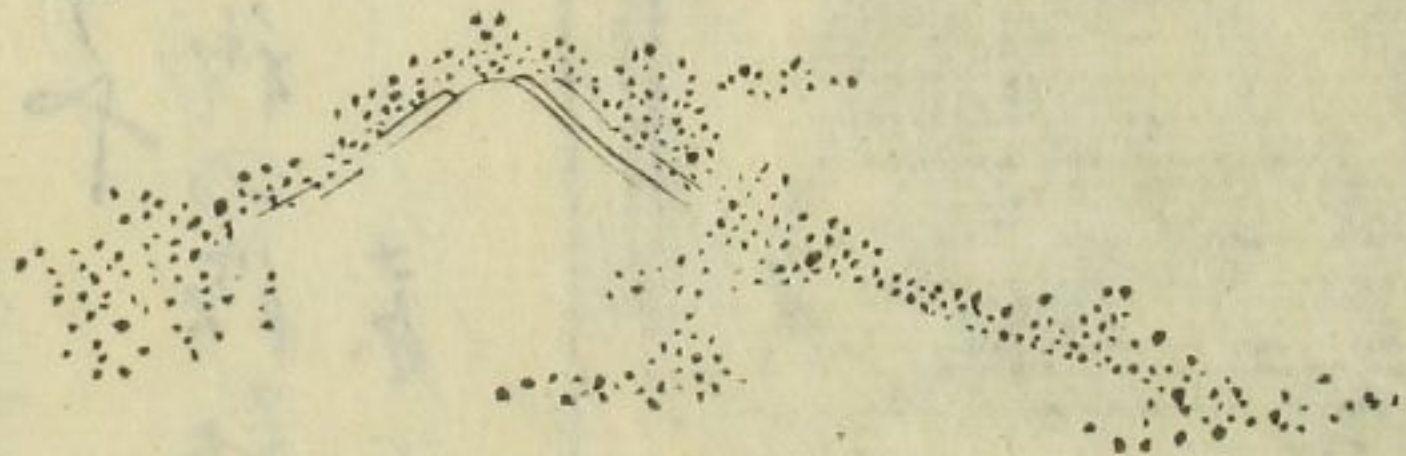
山

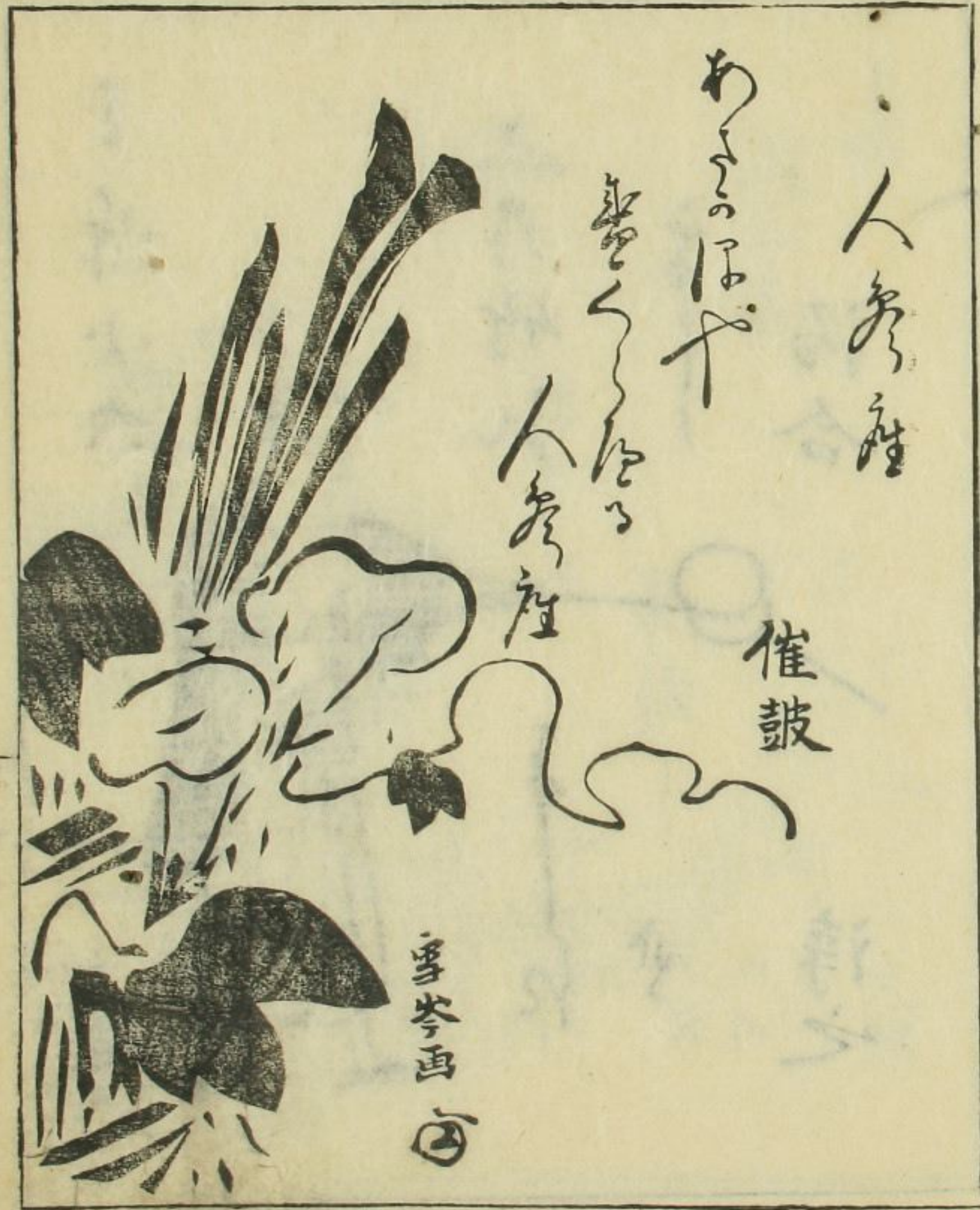
お町

蚕店

宜徳

きんぎょ





人形座

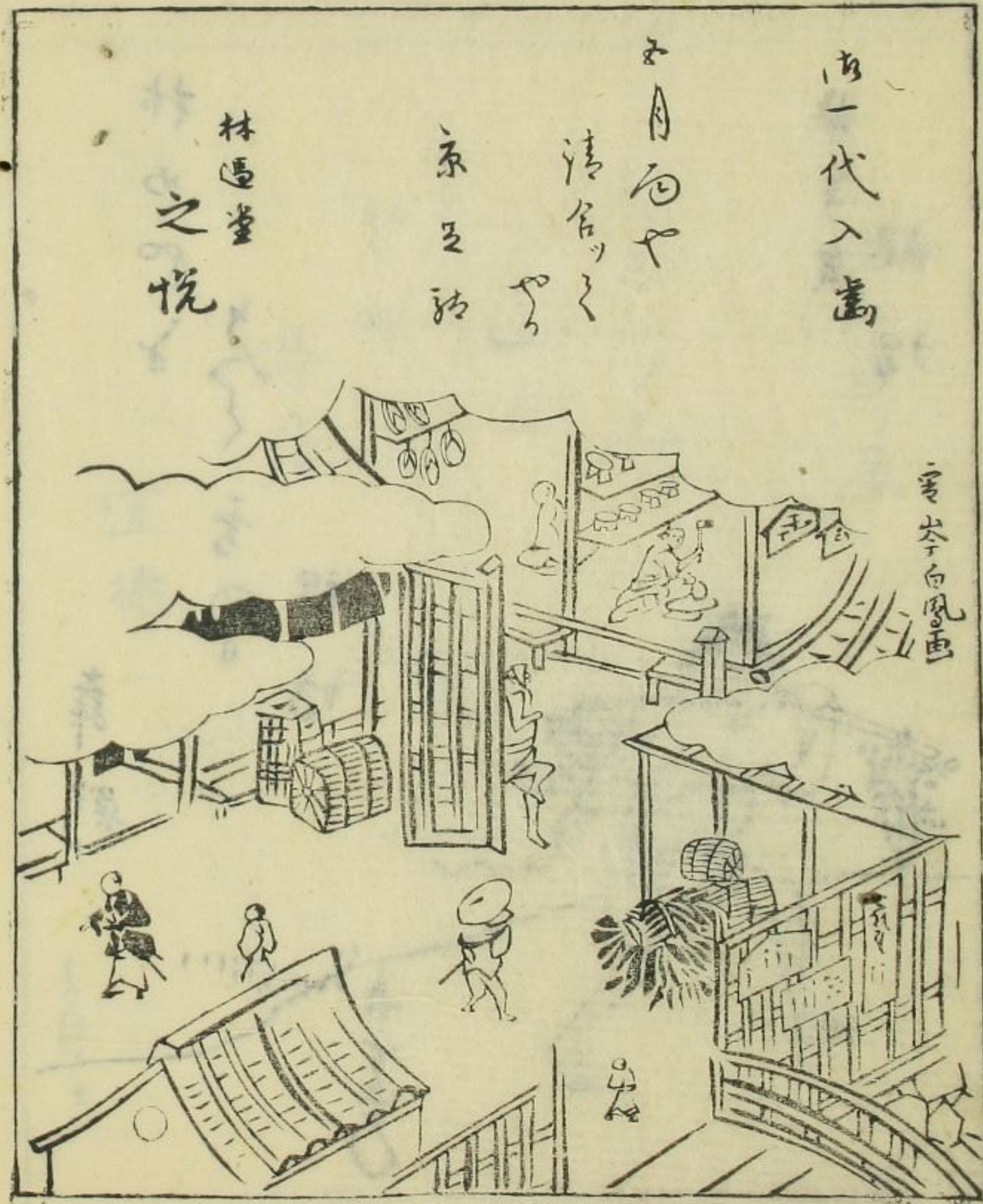
あまのほろ

あまのほろ

人形座

催鼓

雪峯画



西一代入畫

五月白や

清合

や

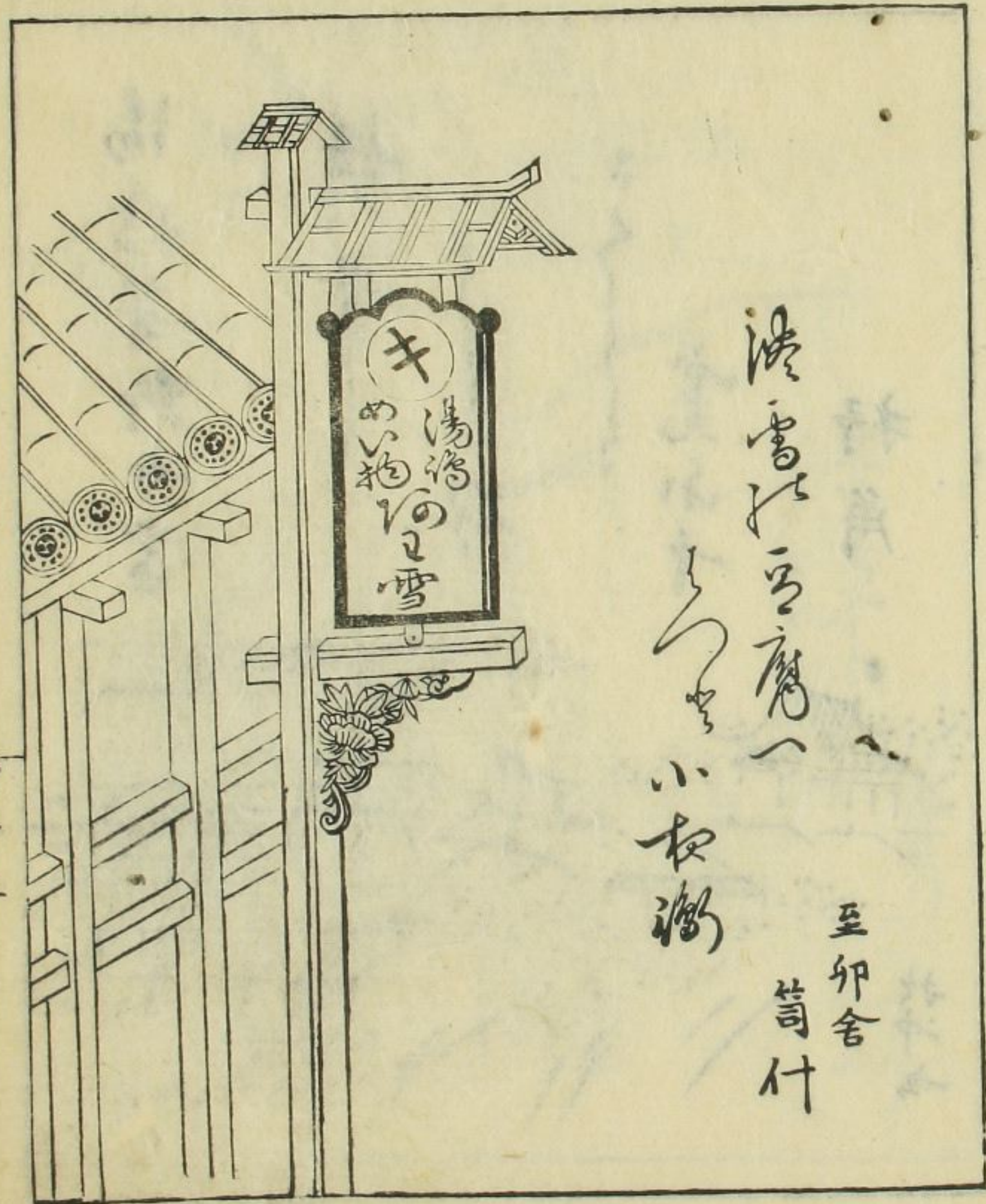
系五節

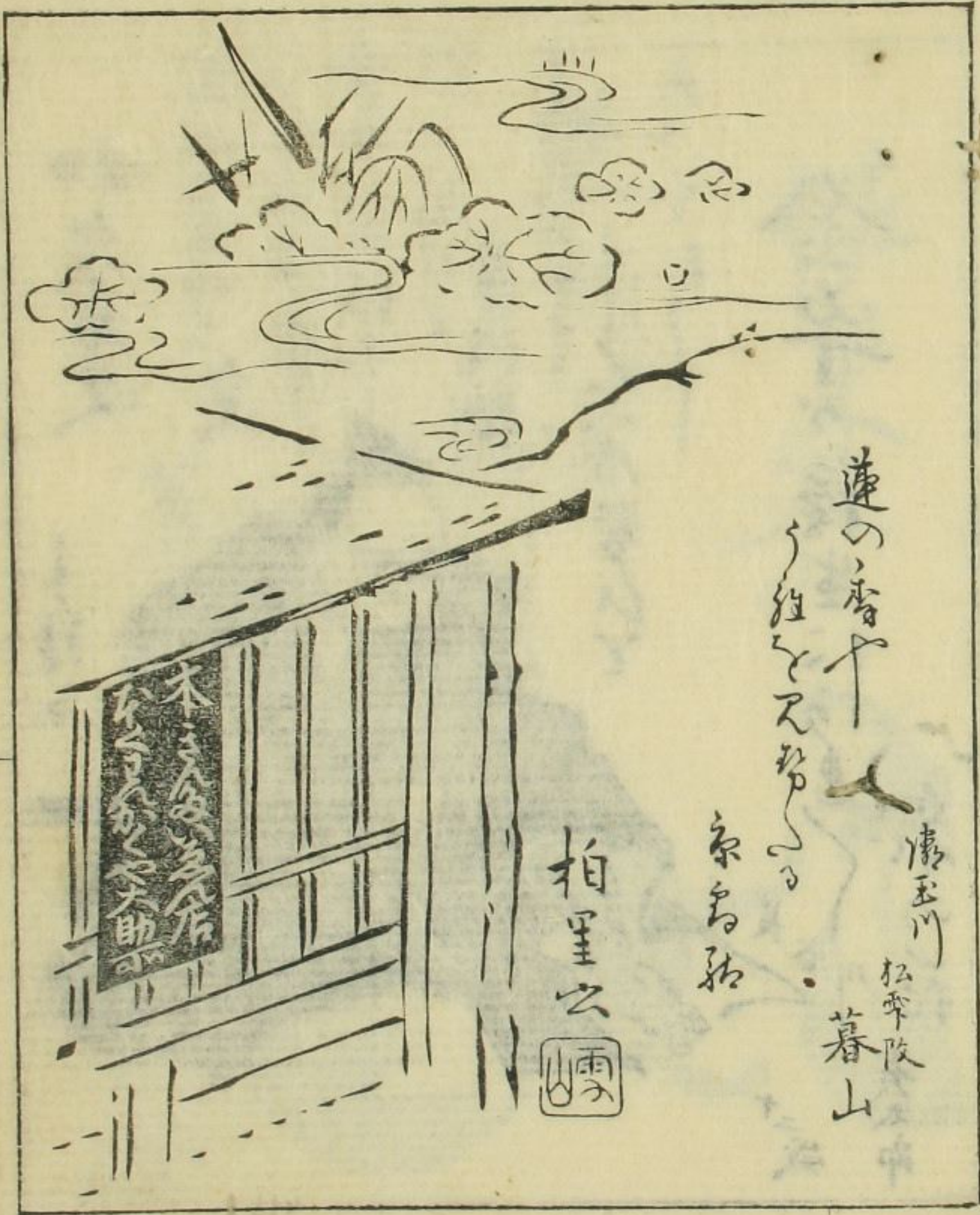
林邊堂

之悦

雪峯白風画







瀧玉川
 松平政
 暮山
 蓮の香
 糸島新

柏里之



湯治茅野寺

辨常

形

寛永寺

村角

於冲也



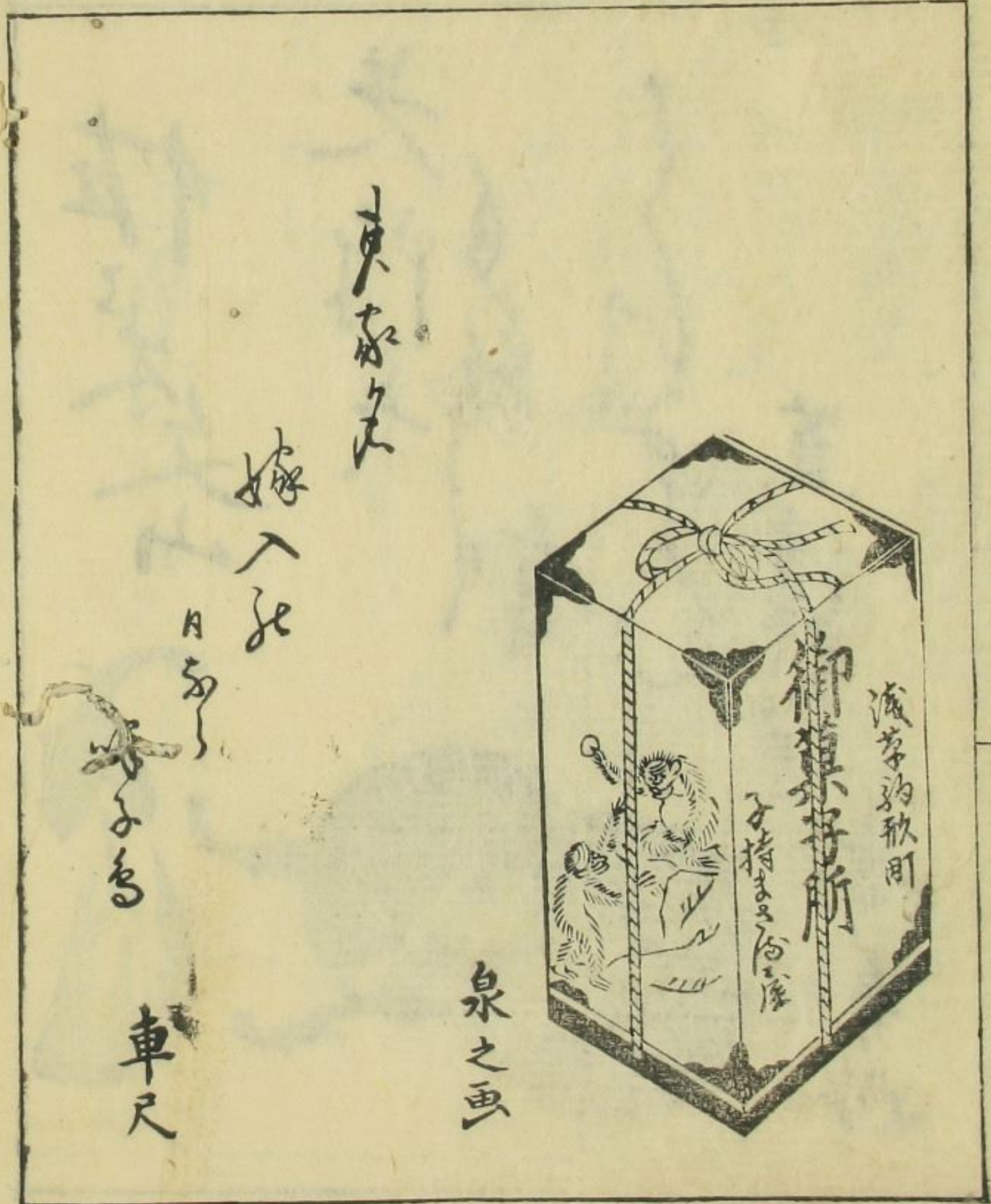
佃作の藤

この絵柄の柄物も
 押しおくり又お
 物も

春の
 尾も
 寺の

山下全川

嵐夕画



東家

嫁入

月

子

車尺

泉之画

御菓子所
 子持
 源

源
 源
 源



舟宿

いふは精糖

堀の

新

山宮

岩田

駒夕



新吉原
と神楽

新あそ

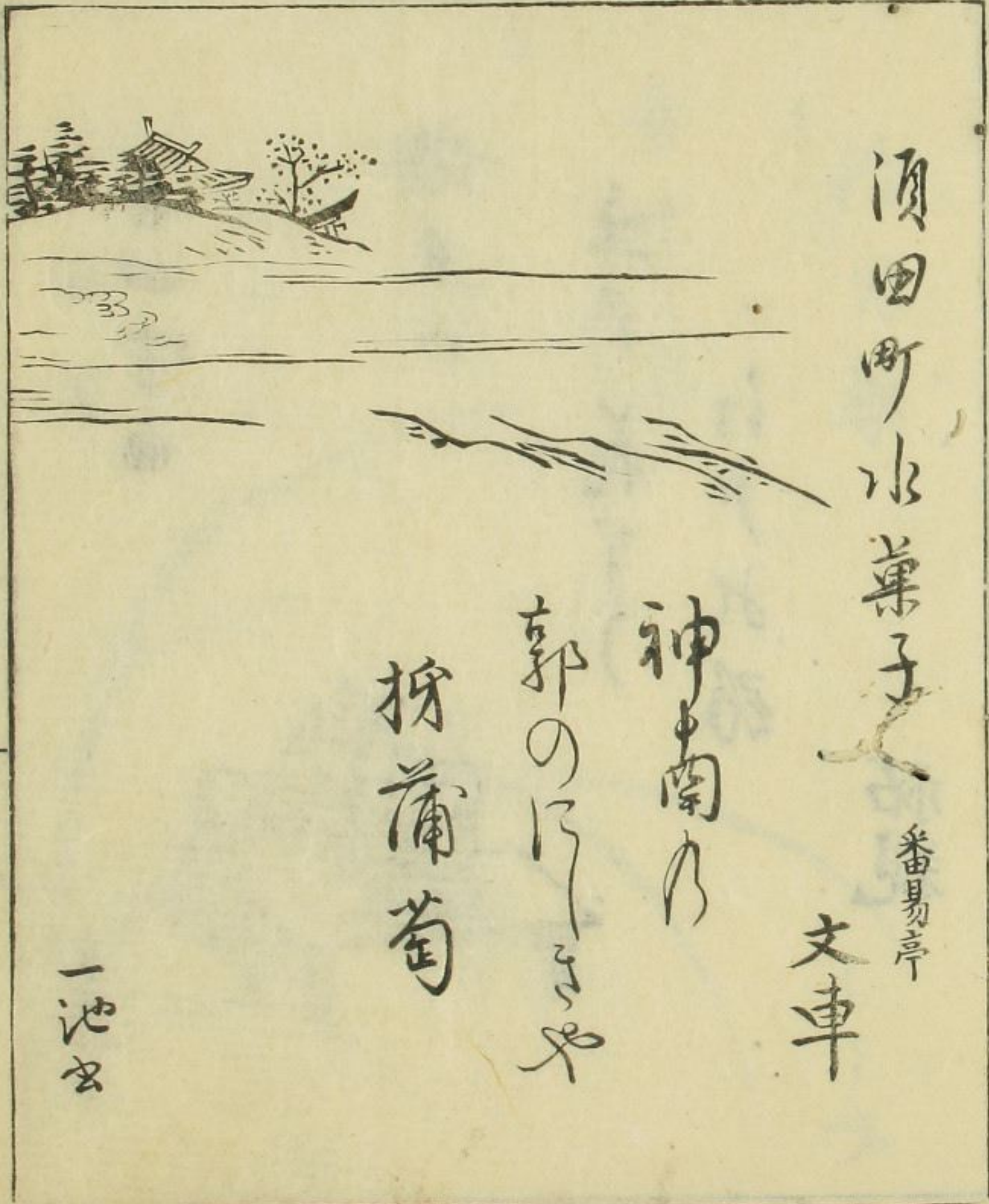
是は名はくは

平之柳子

大神宮

秀圃自画

下三



須田所水菓子

番易序

文車

神南乃

郭の行

掬蒲萄

一池也

寄唐詩畫
譜憶岩楓
之産



岩乃月葱
夜乃室
斗南

一池也

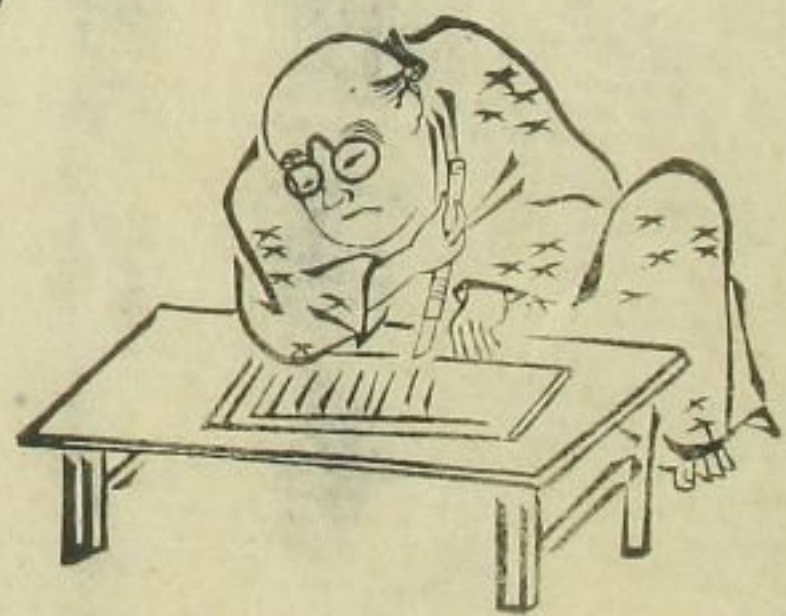
吉田守白

歳旦ハ

年の花びら

江戸此歌

祐親



三十一

稲目薬

壺中より

あはれ

稲屋の

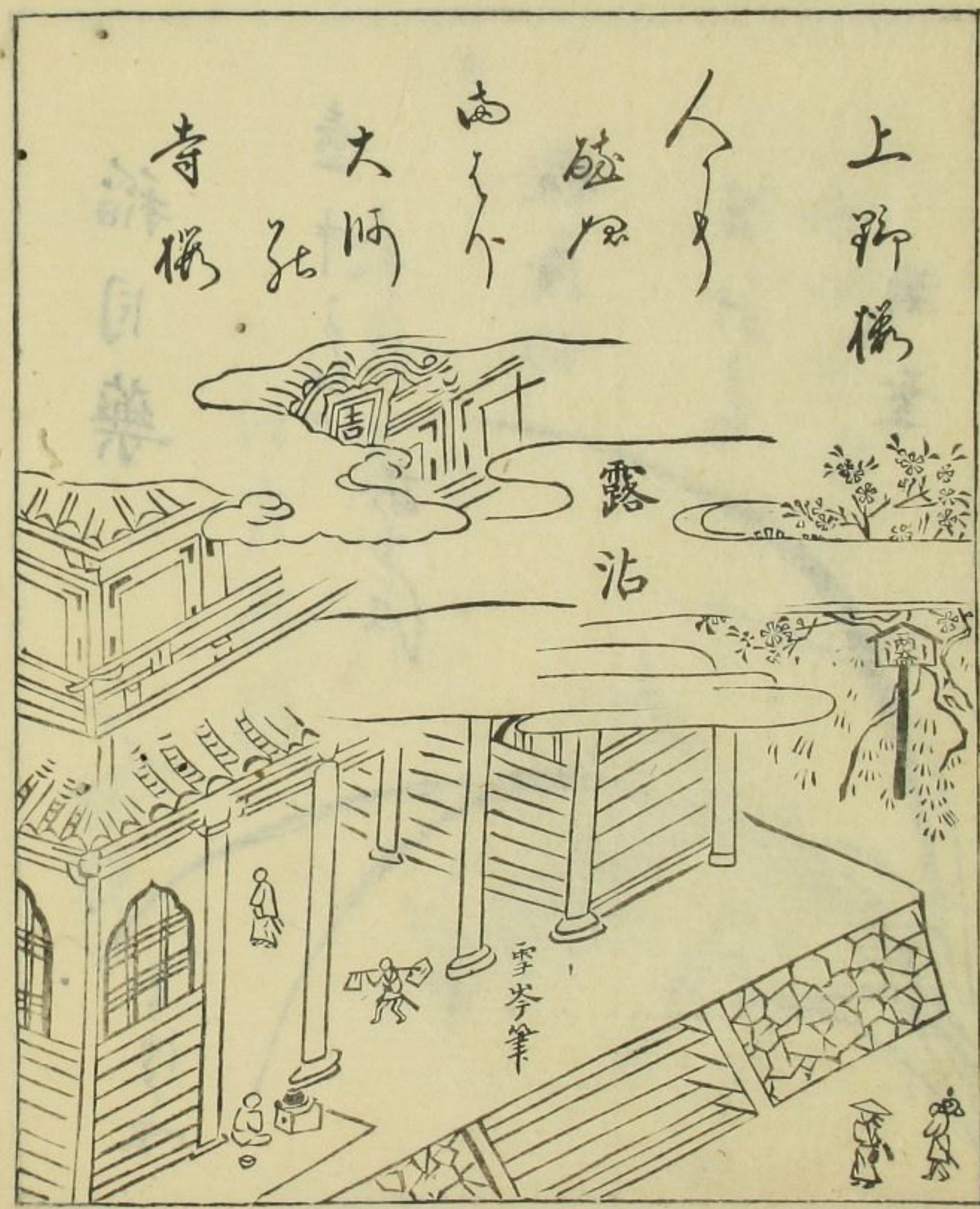
音はら

蘭臺



三十一

小瀧を穿る水は掃子簾の
 三花
 又形よは木枯乃る
 露月
 従者塔の藻急と葉をが捉て
 幾邦
 移りくも形越えり
 負磨
 白借の跡を踏りし月の隈
 千杵
 香煙干るる明ほの影
 巴船
 浮遊するの雅も給は後子歌
 松雨
 休るる芝のついでに
 素扇



古い夏草のうらみて月夜言	催種
冒い片人あつた始川ッ	貞佐
猶も尾の後糸あつたは秋	執筆
窓一際いそいそおき	三花
瘦麻の風ささるる暮秋月	巴船
出産便船と叫ぶらん	幾邦
啼もせぬ鳥の叫ぶらん	露月
角所うらみあつたあつた	千杵
ふのうらみあつたあつた	貞磨

若 穠きあつたあつたあつた	松雨
田螺とせ踏もはつたあつた	貞佐
扇首うらみあつたあつた	催種
うらみあつたあつたあつた	素扇
なつたあつたあつたあつた	貞磨
二人あつたあつたあつた	三花
色纏と指さすあつたあつた	巴船
あつたあつたあつたあつた	松雨
あつたあつたあつたあつた	幾邦

舞は子の歌はまゆの鬘を
 新細くや之世相
 基は負の髪も髪は鏡山
 白は重いと杉の初は解
 兵と己の心乃記縁縁
 世は柱くはて雲もらん
 唐の一色を解走はゆい
 戸河取取人波着高切と打
 花咲く松のるるはし歌

千杵
 貞佐
 催種
 素扇
 三花
 露月
 巴船
 松雨
 素扇

連歌も丁度書き終りぞ

催報

春の歌句

春は竹の床もる花もえは
 夏は句
 あゝ涼し極の瓶は居よ
 舞は冬同し初は字面白
 ぬれてはと土作物も極は
 山々や鳥の書もる鳥の

光嵐
 一洲
 嵐夕
 可圭
 橋井

四季

繫鈴舎

乳帯ひねりひりりしきお鶴子
 血おあまゝ連くまをりし塩平
 瑞ふとま鳴坂まをりしつり踏
 踊る音の中うら鳴きぬ歌
 鬼百合や六十帖の落し居れ
 白雨お跡然世のりも此
 舟子
 貞郁

歌仙
 子、五月下八日
 青柳軒を催之

風や五柳の元お眞葉舎
 百味あひし乃神の羽衣
 将人の木綿織子の月
 来山をきし是れ神旅
 うらうらと例お永湯の月の
 樹とよみ枝り仕て了
 何所とあゝ観音の隅編着
 産歌の心ど例もかき
 首尾とあゝ人のまゝしに種おあ

貞佐
 露月
 来川
 山洲
 松雨
 撰居
 露月
 松雨
 撰居

今もあはれ言ふ川
 流の酒の味はて笑ひ
 一夜に流るる水は
 流ひ月も光り出さ
 去る貴は船河漕
 切来て是は後生
 空の影をさす川
 小幡も来連して
 降る雨も離れ
 来川
 山洲
 露月
 松雨
 貞佐
 撰居

可きもの何れも
 神の隠しは来
 夏も今電は昔と
 小幡も来連して
 古も新しき
 明日は朝も成
 耳は世話と
 離れ
 来川
 山洲
 露月
 松雨
 貞佐
 撰居

河一くし軍とあは波一

貞佐

狼も祥一くし月漢一

來川

盗之せぬ菊々胡椒中麓

露月

鞠子菊鞠蹴部とくをうり

貞佐

和尚の胎紙とて赤の四

來川

雪片一儂く枕の牛の繚

山洲

二三牧屋ぐ男唇

撰居

花の書寄家くの紋の織

松雨

ふく強あり一田標と後け

執筆

新巻右一とと紙の質をそり地獄

あふか一莊子傳法をうり心と心は

下は一やが菊の孔子はる新巻の

盗取海を一とて河をんあまの

か一とて屋のた後成に家能

侍の心ある西行の物に心を

中へたのり海かゝり此杯と僧上人
此月もふ戯ま金持かゝるこの実我
多に俳風の佳句流るにゆゑを安
と画しつゆ梓よりしを先名名地麻子
と号しつゆのまのまゝ

伍重軒

露月

嘉祥薰徳是無地
聖代等倫耽碧粧
非宴水嬉水独歩
合歡心路滿林香

牧理軒

佳風

名物と案々

表紙

百里

右吏部員外郎朝散大夫近房

業平橋規

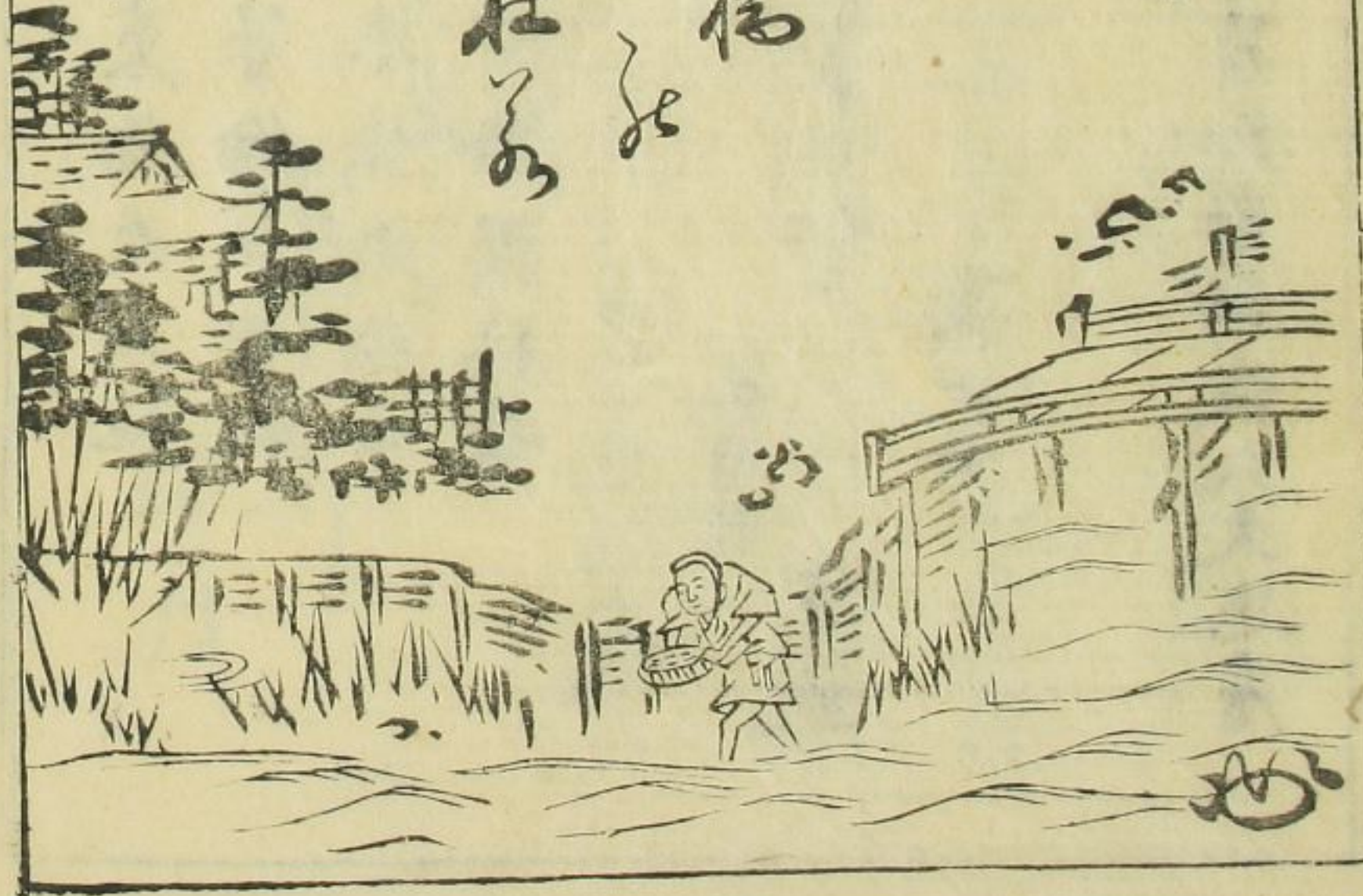
庭了か

業平橋

杜の

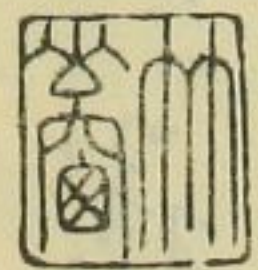
寬軒軒

橋泊



滕王高閣臨江渚襟
三江帶一湖落霞
孤鶩鳴雁陣鷺鷥佳
境一一盡勃之健草
夫滕王閣主人其會集
不擇賢賤以復露月子

新編江都商賈品類
瓊玖句々從其為手接
聰明賢賤不辨其列
唯為嘉月子漫書以
謝其花耳



享保十八癸歲

未秋出板

撰者

豐嶋治左衛門



同 弥右衛門



彫工

吉田治郎兵衛



書林

須原屋与兵衛



